

1. 目的及び内容

シラヒゲウニ資源の積極的な増加を図る目的で放流用種苗の生産を行う。

9～12月に6回次延べ54面で幼生飼育を行った結果、幼生は4腕期後半から8腕前期に大量減耗し、種苗生産数は殻径1～27mmのウニ52個にとどまった。

2. 方法と結果

(1)親ウニは天然産の殻径7cm以上のウニを使用し、8～12月に9回の採卵を行った結果、数個の親から500～3,500万の卵を採取し、受精、ふ化を行った。

(2)幼生飼育を9～12月に6回次延べ54面で止水及び流水飼育、通気方法及び通気量、飼育海水、口器除去とKCl刺激採卵によるふ化幼生などの比較飼育をおこなった結果、いずれの飼育方法でも幼生は4腕期後半から8腕前期に大量減耗し、飼育中にほとんど全滅した。

(3)生産した8腕期幼生(14.4万個)を採苗し、継続して稚ウニ飼育を行った結果、約2ヵ月後に殻径1～27mmのウニ52個を取り上げた。

3. 残された問題点

(1)親ウニの確保及び卵質の検討。

(2)幼生の飼育方法を再検討し、飼育技術の確立を図る。